

外国語で書かれた  
やさしい絵本からはじめて、たくさん読む

http://tadoku.org/

# 多読村瓦版

多読村祭り記念号  
2010.11.21

多読 はじめの一步の手がかりに  
ご自由にお持ちください

制作:tadoku.org  
編集:多読村祭り実行委員会  
(Owly, edomon, emmie, じゅんじゅん、すろっぴ、肚裡)

## ■多読って、なに？

多読とは文字通り本をたくさん読むことですが、ここでは外国語で書かれたやさしい本からはじめて、大量に読むことを意味します（注：ここでは主に英語を例にします）。

## ■多読で、どうなる？

肩の力が抜け外国語と対等につきあえるようになります。そして外国語の文章を日本語に訳さずに理解できるようになり、ついには日本語の読書とおなじように外国語の読書を楽しむようになります。

## ■三本柱

多読を支える三本柱は、

- 1.多読三原則
- 2.大量の読みやすい本
- 3.仲間

です。一つ一つ説明しましょう。

### 1. 多読三原則

多読三原則はここで提案する多読のいちばん大きな特徴です。一言で言えば、日本語に訳していた癖から抜け出すために、多読三原則を利用します。多読三原則とは……。

- (1) 辞書は引かない
- (2) わからないところは飛ばす
- (3) 合わないと思ったら、投げる

## (1) 辞書は引かない！

ほとんどの人は「辞書を引かずに外国語の本を読む」と聞くと、そんなことできるわけないと考えます。無理はありません。外国語を学ぶには辞書は必須というのが常識です。

けれども、まったく学校で英語を習っていないのに、辞書を使わずに英語を読めるようになった例は少なくありません。どうしてそんなことができたのか？ 簡単です。「辞書を引かなくても楽しめる本」からはじめればよい。そして自分でも気づかないほどゆっくりとレベルを上げていけば、そのうちペーパーバックが読めるようになります。通常の「学習法」では必要とされる努力や根性や明確な目標などはいりません。

## (2) わからないところは飛ばす！

どんなにやさしい本から読みはじめてもそれでもわからない語はあるものです。ぱっとわからなかったらどうするか？

無視します。飛ばします。それが多読三原則のその(2)です。考えこんではいけません。英文を読んでいて、目に入ってきた語が知らない語だとわかった瞬間、無視して次の語へ目を走らせます。

知らない語は見なかったことにします。でも、その語が文の中で大事な役割を担っていて、その語を知らないために文全体の意味がわからなかったら、どうするか？ 辞書は引かないまでも、最初に戻ってもう一度考えるか？

いいえその文は見なかったことにして次の文を読みます。その文がまたわからなくて、その次もわからなくて、ついに一段落全部なんのことかわからなかったとします。段落の頭に戻ってもう一度読みますか？ ……読みません。

けれども豪快に飛ばしているうちに、一章まるまるなんのことかわからなかったりします。その場合は章の最初に戻ってもう一度読むか？ もちろん、読まない。その章は見なかったことにする。

ただ、章を飛ばすほどになると、かなり悲劇的な事態に陥ります。たとえば、登場人物が誰が誰だかわからなくなる、主人公が消えてしまう。そうなったら、多読三原則その(3)を適用します

## (3) 合わないと思ったら、投げる！

今の自分にはむずかしすぎるとしたら、そこでその本を読むのをやめます……きっぱり、やめます。それを多読では「投げる」といいます。

はじめたことを途中で放棄する……これは日本人の骨に染み込んだ倫理に反します。けれども言葉の獲得では、読むのがつらくなったり、聴くのがつらくなったりしたら、やめなければなりません。結局その方が早く言葉が身につきます。不思議ですね……。

## 2. 大量の読みやすい本

だれでもゼロから！

ここで提案する多読のもう一つの特徴は「だれでもゼロからはじめる」ことです。だれにでも文字のない絵本からはじめることを勧めます。字のない絵本ならだれでも「読む」ことができます。字のない絵本を何十冊も読んで、次に1ページに一つか二つの語しかない絵本を何十冊か読み、その次には1ページに三つか四つの語しかない絵本を読み、そのまた次には五つか六つ……と次第に語数を多くしていくと、不思議や不思議、字ばかりのおとな向けの洋書も読めるようになるのです。

「やさしい」絵本は実に栄養豊かな素材です。Oxford Reading TreeやLongman Literacy Landなどの絵本は、絵と文字で（一部は音つきで）世界と物語を表現しています。何百冊もあるそうした絵本に浸ると、言葉と世界とそこに住む人たちのことが自分のことのように感じられます。外国語の吸収にはほぼ理想的な素材と言えるでしょう。またおなじような素材はDVDやインターネット上のサイトでも手にすることができます。

## 3. 仲間

多読はこれまでの英語学習とあまりに違うので、不安になることがあるでしょう。そんなときに味方になってくれるのが、多読仲間です。

多読仲間はどこにいる？

多読を楽しむ人の数はいまや万を数えるのではないのでしょうか？ その中の数千人は多読村などの掲示板に集っているようです。ぜひ掲示板をのぞいて、英語と親しくなり、英語を使って様々なことを楽しんでいる人たちがいることを確かめてください。

各地の「オフ会」に出席して、さまざまな情報を分け合ったり、励まし合ったり、本を貸し合う人たちも少なくありません。オフ会の敷居の低さは参加してみなければわかりません。多読村の掲示板には「オフ会の掲示板」があって、各地で開かれる多読好きの人たちの集まりについてお知らせが出ます。

多読講演会も各地で開かれます。昨年は何十という町で多読や多聴やシャドーイングについての講演会を行いました。そうした集まりのあと、開催側および参加者の全員がそのまま帰ることはまずありません。数人から数十人の多読を実践している人たちが歓談のひとつきを過ごします。そうした集まりに思い切って入ってみましょう。そこから「多読がどういうものなのか？」が見えてくるかもしれません！

仲間を作ろう！

まず自分ではじめて、おもしろさを実感したら周りの人を誘ってもいいでしょう。多読を楽しむ人たちには、親御さんやお連れ合いを誘う人もかなりいます。

語彙は増えるの？ 文法はやらなくていいの？

ただなんとなく読んでいるだけでは英語の力がつくはずはない、という人がいます。大丈夫です。最初は分からなくて飛ばしていた語も、何度も目にするうちにだんだん意味の輪郭がハッキリしてきます。また一語一語はよくわからなくても、文章ひとまとまりではなんとなくわかってきます。こういうことを繰り返しながら、気がつかないうちに知っている言葉が増えてきます。そして、こういう頭の作業（心の作用？）には文型だの、〇〇形だのという知識は必要ないのです。そうした知識に目や気持ちが囚われると見えなくなってしまうものがあるようなのです。

文法についてもおなじことが起きるとは信じにくいことかもしれませんが、たしかに起きます。文法を知らなくても日本人が外国語を読めるようになり、聞けるようになるのです。典型的な例では、ある中学1年生が多読をはじめて6ヶ月でIt should have been you.という文の役割を見事に捉えていました。学校ではまだ過去も習っていない時期でした。実は母語についてはだれでも文法を習わなくても上手に使えるようになります。多読はおなじことが外国語獲得についても起きることを明らかにしたと言えます。

いつはじめる？

だれでもゼロからはじめられる上、単語や文法の暗記がいらないので、何歳からでもはじめられます。これまでの最年少は2歳半、そして最年長は70歳を越えた方たちです。

この文章は、酒井邦秀のウェブサイトで書かれている「多読について（最終更新日：2009年5月12日）」より抜粋・編集しました。全文は、<http://tadoku.org/716lab/tadoku/tadoku.html>にて読むことができます。



<http://tadoku.org/>  
サイト内には、酒井邦秀のブログ、掲示板など多読に関する情報がたくさん。